

I アンケート調査の概要

1 調査目的

博士前期課程1年次学生の進路にかかわる意向調査で大学生活において、充実した進路・キャリア形成の機会を作ることを実施

2 実施期間

令和5年4月4日～5月16日

3 実施方法

調査対象: 令和4年度博士前期課程1年次生(令和4年10月入学者含む)

調査方法: 学務情報システムアンケート機能を利用

4 回答状況

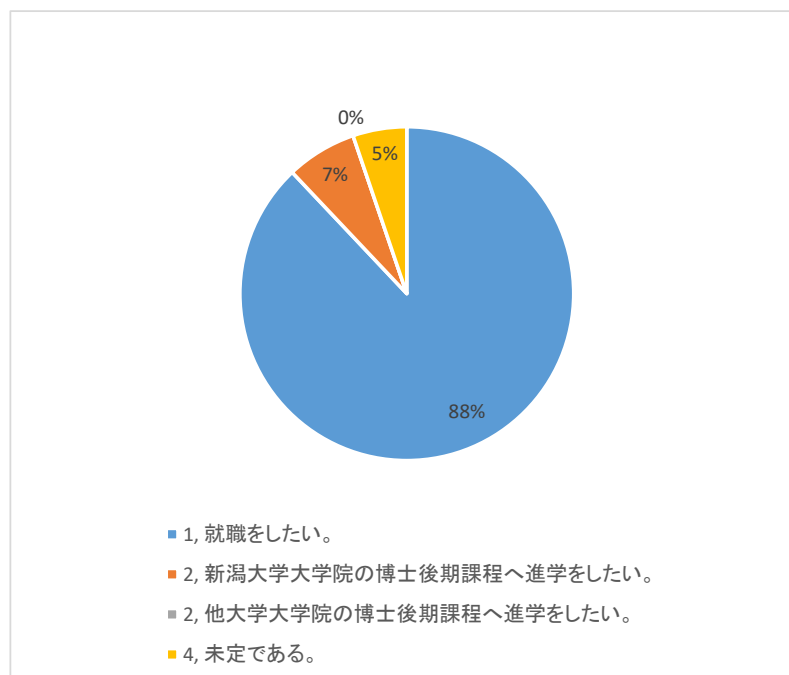
学生数: 547名 回答数: 249名 回収率: 45.5%

Ⅱ アンケートの集計結果

修士1年アンケート結果

設問1 博士後期課程進学を検討:現時点で予定をしている博士前期課程修了後の進路について教えてください。【4者択1】(必須)

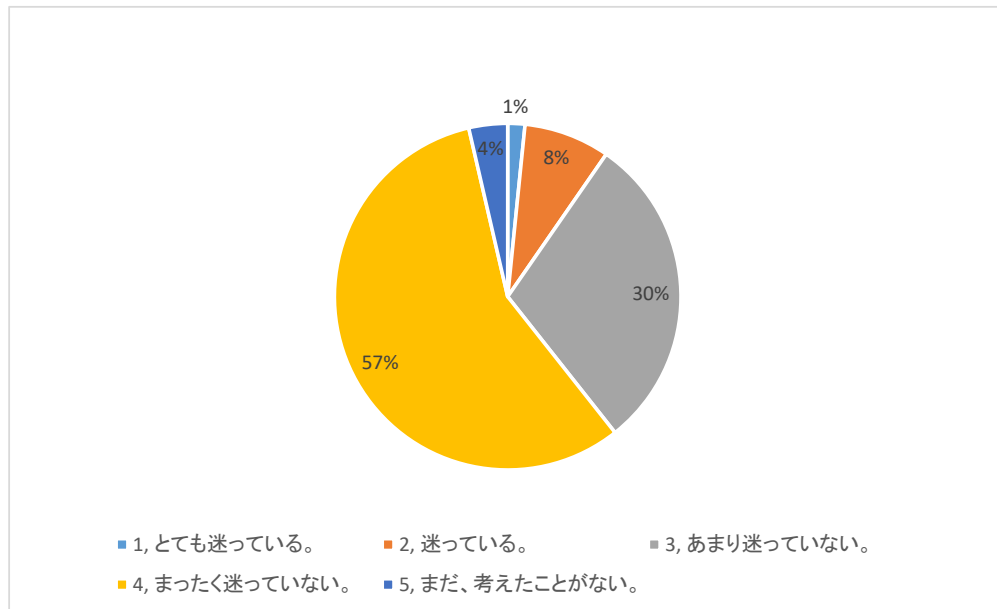
1, 就職をしたい。	219
2, 新潟大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい。	17
2, 他大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい。	0
4, 未定である。	13



- 大多数の学生(88%)が就職を希望している。昨年度、一昨年度と比率もほぼ同じ。
- 本学の後期課程への進学希望は7%(昨年度3.8%(他大学含むと6.2%)、一昨年度4%)
- M1段階での本学の後期課程進学希望者17人はこれまでで最多(R3年9人、R4年11人)。

設問2 博士後期課程進学を検討:設問1の博士前期課程修了後の進路について、意思決定の度合いを教えてください。【5者択1】(必須)

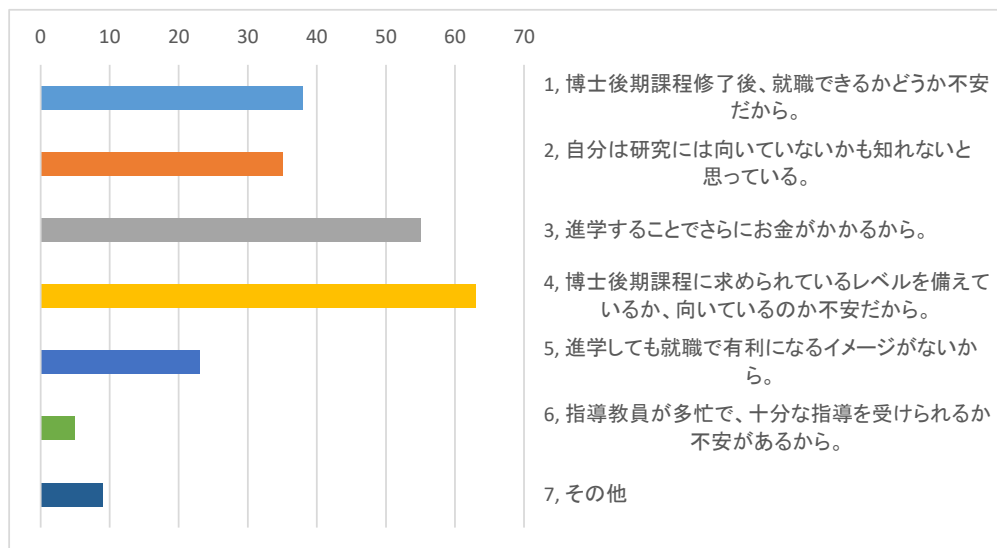
1, とても迷っている。	4
2, 迷っている。	20
3, あまり迷っていない。	74
4, まったく迷っていない。	142
5, まだ、考えたことがない。	9



●(あまり、全く)迷っていないと回答した学生の割合が87%に達しており、これは就職希望の学生の割合とほぼ等しい。昨年度87%、一昨年度87%と全く同じ。

設問3 博士後期課程進学を検討:設問2の質問で1~3のいずれかを回答した方にお伺いします。博士前期課程修了後の進路について、迷っている理由を教えてください。【7者択7】

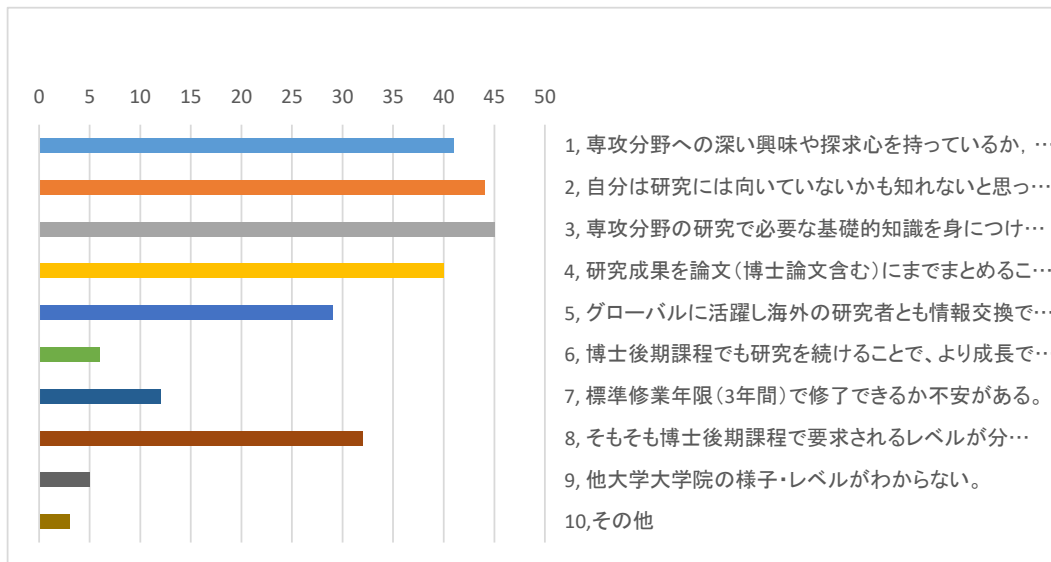
- | | |
|-------------------------------------------|----|
| 1, 博士後期課程修了後、就職できるかどうか不安だから。 | 38 |
| 2, 自分は研究には向いていないかも知れないと思っている。 | 35 |
| 3, 進学することでさらにお金がかかるから。 | 55 |
| 4, 博士後期課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから。 | 63 |
| 5, 進学しても就職で有利になるイメージがないから。 | 23 |
| 6, 指導教員が多忙で、十分な指導を受けられるか不安があるから。 | 5 |
| 7, その他 | 9 |



●博士取得に対する自らの能力に不安を感じて進学に躊躇する学生の割合が多いが、これと併せて資金的な問題や後期課程終了後の進路に関する不安が多い。昨年度、一昨年度ともこの3つが上位に来る。「就職で有利になるイメージがない」は減少傾向にあるようだ。教員の認識(一昨年度アンケート結果)以上に「求められているレベルを備えているか不安」が多い傾向がある。

設問4 設問3で4と回答した方にお伺いします。不安である理由としてはどのようなものが考えられますか。【10者択10】

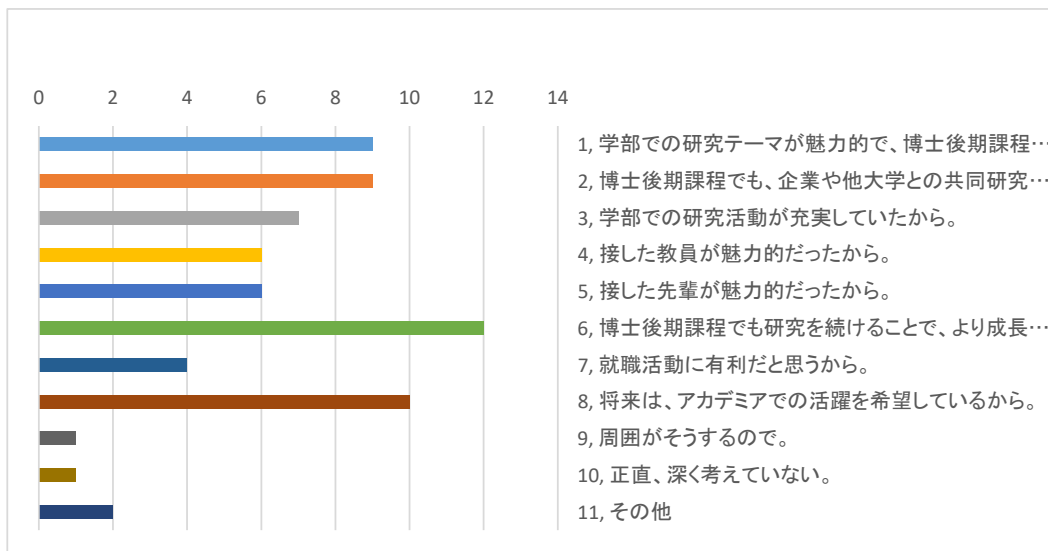
1, 専攻分野への深い興味や探求心を持っているか, 研究が本当に好きかどうか现阶段では自分でも分からない。	41
2, 自分は研究には向いていないかも知れないと思っている。	44
3, 専攻分野の研究に必要な基礎的知識を身につけているか不安がある。	45
4, 研究成果を論文(博士論文含む)にまでまとめることができるか不安。	40
5, グローバルに活躍し海外の研究者とも情報交換できるか不安(語学力)。	29
6, 博士後期課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから。	6
7, 標準修業年限(3年間)で修了できるか不安がある。	12
8, そもそも博士後期課程で要求されるレベルが分かっていない。	32
9, 他大学大学院の様子・レベルがわからない。	5
10,その他	3



●前節で博士取得についての具体的な内容についての設問であるが、具体的な研究の遂行能力に関する不安が多い。ただ30%強の学生は要求されるレベル自体がわからないという回答をしている。

設問5 博士後期課程進学を検討：設問1の博士前期課程修了後の進路について、2.新潟大学大学院の博士後期課程へ進学したい。と回答した方へお伺いします。博士後期課程への進学を検討することに影響のある観点を選択してください。(推奨3点選択)【11者択3】

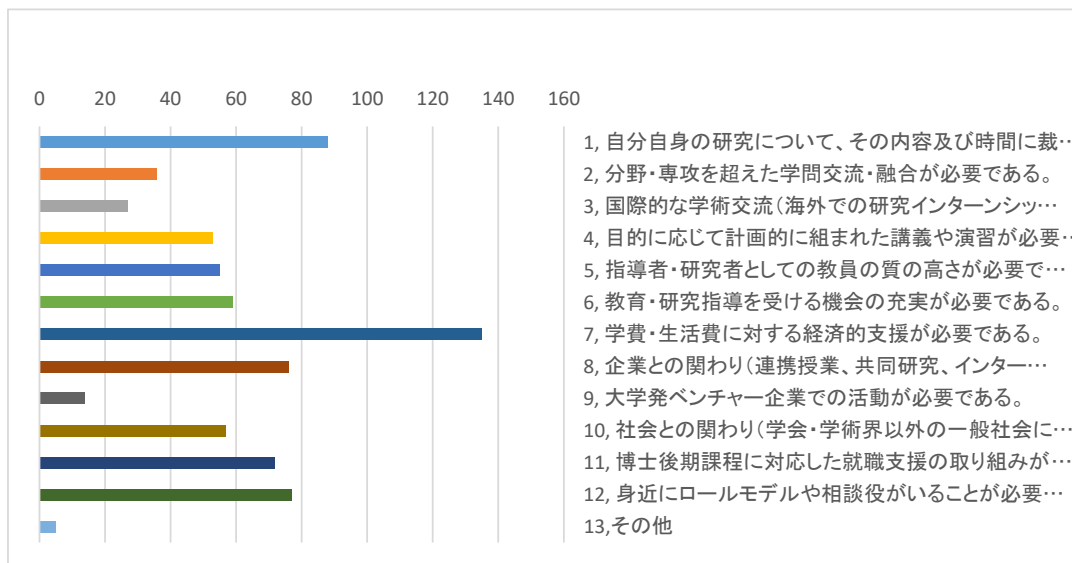
- | | |
|-----------------------------------------|----|
| 1, 学部での研究テーマが魅力的で、博士後期課程でもその研究を継続したいから。 | 9 |
| 2, 博士後期課程でも、企業や他大学との共同研究をより経験したいから。 | 9 |
| 3, 学部での研究活動が充実していたから。 | 7 |
| 4, 接した教員が魅力的だったから。 | 6 |
| 5, 接した先輩が魅力的だったから。 | 6 |
| 6, 博士後期課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから。 | 12 |
| 7, 就職活動に有利だと思うから。 | 4 |
| 8, 将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから。 | 10 |
| 9, 周囲がそうするので。 | 1 |
| 10, 正直、深く考えていない。 | 1 |
| 11, その他 | 2 |



●後期課程でも研究テーマを継続したいという回答とともにアカデミアを目指す学生も多い。また共同研究に関心を示す学生も多い。上位はほぼ例年と同じ。基本は探求心が進学へのモチベーションになっていると考えられる。

設問6 博士後期課程進学改善への取組み:新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程が今よりさらに魅力的になり、進学を前向きに検討するためには、どのような活動や研究の舞台、仕組みが充実するべきだと思いますか。【13者択13】(必須)

1, 自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること	88
2, 分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である。	36
3, 国際的な学術交流(海外での研究インターンシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など)が必要である。	27
4, 目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である。	53
5, 指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である。	55
6, 教育・研究指導を受ける機会の充実が必要である。	59
7, 学費・生活費に対する経済的支援が必要である。	135
8, 企業との関わり(連携授業、共同研究、インターンシップなど)が必要である。	76
9, 大学発ベンチャー企業での活動が必要である。	14
10, 社会との関わり(学会・学術界以外の一般社会に向けた情報	57
11, 博士後期課程に対応した就職支援の取り組みが必要である。	72
12, 身近にロールモデルや相談役がいることが必要である。	77
13,その他	5



- 学費などの経済的な支援を求めている学生が圧倒的に多い。具体的な中身は設問で聞いていないが、自分の研究内容に自身の裁量が欲しいという回答も目立つ。
- 共同研究などで企業とのかかわりを求めている学生も多い。上位はほぼ例年と同じ。
- 「自身の裁量」と「企業との関わり」は教員の順位は低く、学生の認識と乖離がある。

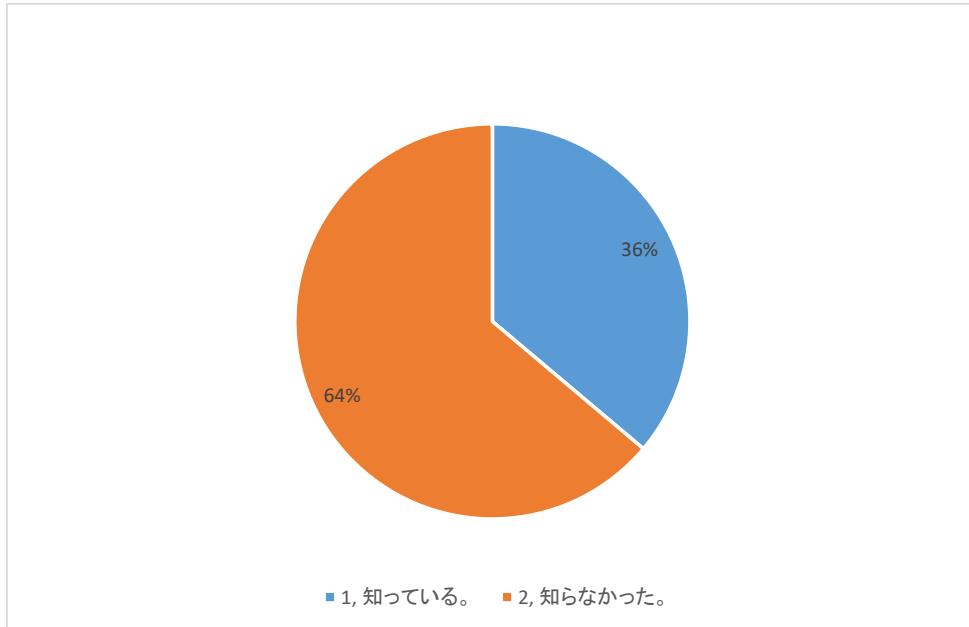
設問7 博士後期課程進学を支援する返還不要の奨学金制度(学振DC, フェローシップ, 次世代事業:いずれも年間200万円程度支給)があることは知っていましたか?【2者択1】(必須)

1, 知っている。

90

2, 知らなかった。

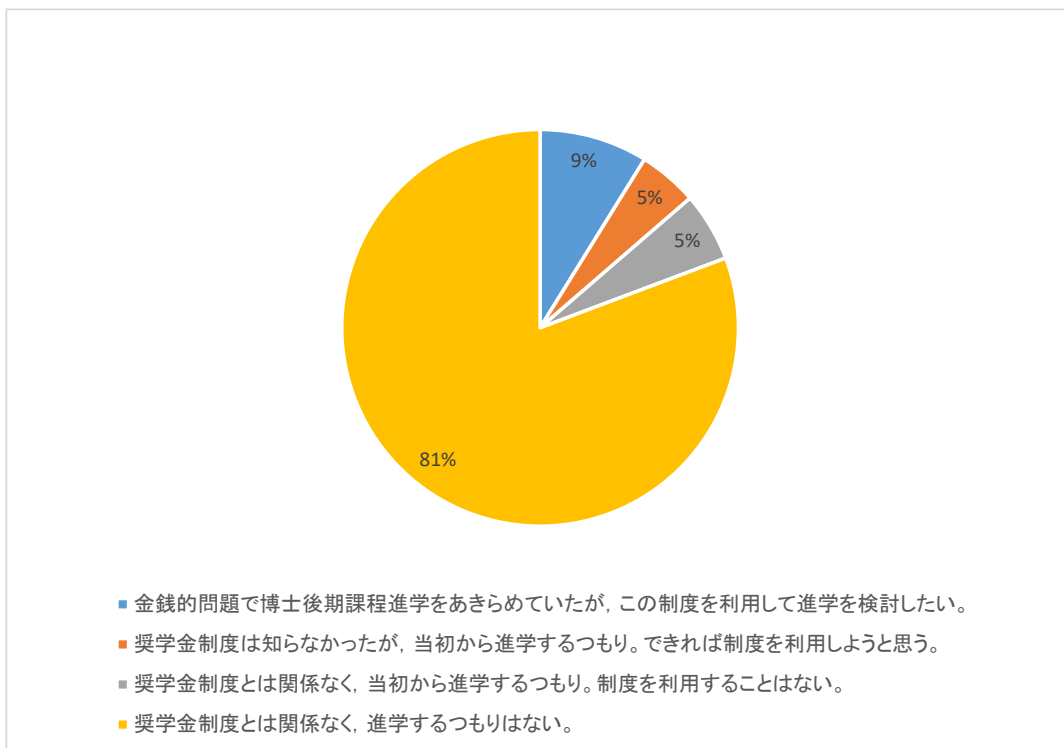
159



●進学に関して経済的な不安要素が高いという回答が多かったが、その割に65%の学生が奨学金制度について知らなかったと回答している。昨年度は知っているが57%で半数以上であった。

設問8 設問7の奨学金制度があれば、博士進学を検討する材料にはなりますか？【4者択1】(必須)

金銭的問題で博士後期課程進学をあきらめていたが、この制度を利用して進学を検討したい。	22
奨学金制度は知らなかったが、当初から進学するつもり。できれば制度を利用しようと思う。	12
奨学金制度とは関係なく、当初から進学するつもり。制度を利用することはない。	14
奨学金制度とは関係なく、進学するつもりはない。	201



●ここでは81%の学生が奨学金の有無にかかわらず進学の意思はないと回答している(昨年度も81%であった)。ただ設問1、2で88%の学生が進学する意思がないとの回答に比較して、この差に近い9%の学生が奨学金制度により進学を再検討している。